

日本語学専攻分野科目

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	曜日・講時	平成30年度以前入学者 読替先授業科目
日本語構造論特論Ⅰ	文章・談話の構造論	2	甲田 直美	前期 月曜日 3講時	
日本語変異論特論Ⅰ	日本語文法研究	2	大木 一夫	前期 木曜日 2講時	
日本語変異論特論Ⅱ	方言学的日本語史研究	2	小林 隆	後期 火曜日 2講時	
日本語学特論Ⅰ	日本語文法研究の諸問題	2	三宅 知宏	後期集中 その他 連講	
日本語学総合演習Ⅰ	日本語史・方言研究の諸問題 (1)	2	小林 隆、大木 一夫 甲田 直美	前期 火曜日 4講時	
日本語学総合演習Ⅱ	現代日本語研究の諸問題(1)	2	小林 隆、大木 一夫 甲田 直美	後期 火曜日 4講時	
日本語学総合演習Ⅲ	日本語史・方言研究の諸問題 (2)	2	小林 隆、大木 一夫 甲田 直美	前期 火曜日 5講時	
日本語学総合演習Ⅳ	現代日本語研究の諸問題(2)	2	小林 隆、大木 一夫 甲田 直美	後期 火曜日 5講時	
日本語構造論研究演習Ⅰ	文章・談話の構造	2	甲田 直美	後期 月曜日 2講時	
日本語構造論研究演習Ⅱ	言語地理学と文法	2	津田 智史	前期 木曜日 5講時	
日本語変異論研究演習Ⅰ	近世口語研究	2	大木 一夫	前期 月曜日 2講時	
日本語変異論研究演習Ⅱ	言語変化研究	2	大木 一夫	後期 木曜日 2講時	
日本語変異論研究演習Ⅲ	方言調査法	2	小林 隆	前期 火曜日 2講時	

科目名：日本語構造論特論 I / Structure of Japanese (Advanced Lecture)

曜日・講時：前期 月曜日 3 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：甲田 直美

コード：LM11302, 科目ナンバリング：LJS-LIN601J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：文章・談話の構造論

2. Course Title (授業題目) : Discourse and Conversation Structure

3. 授業の目的と概要：身の回りの具体的な談話の表現を分析する。

文章・談話の構造は、どのようにして捉えることができるであろうか。研究手法としては、(1) 文法論との接点から、談話・文章における結束性保持の手段を考える研究、(2) 会話分析を中心とする実際に生じた会話の参与構造を扱う研究に大別できる。これらの研究について整理し、解説する。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : This course deals with the foundations of discourse and conversation analysis. Do these two approaches simply study the same things, but in different ways? This course compares conversation analysis (CA) with discourse analysis (DA) as methodological approaches to the study of talk.

5. 学習の到達目標：(1) 近年の研究で重要とされる理論を理解する。(2) 授業で扱う研究の意義と限界・問題点について批判能力を身につける。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : At the end of the course, participants are expected to explain the essential concepts of conversation analysis and discourse analysis, and compare two approaches to the study of talk.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1 文章・談話研究とは～テーマ設定から分析まで～

2 新しいコミュニケーションツールのことばについての分析--ケータイメールを中心として PC メール・チャット・ブログなどを材料に

3 インターネットのことば

4 広告のことばの分析--ネット広告と雑誌広告を材料に

5 広告のことばの実際

6 日常会話の分析--小学校教員の談話データを材料に

7 男性の言葉、女性の言葉

8 目的をもった会話の分析--相談談話をモデルとして

9 談話の効果の分析

10 分析事例の紹介

11 会話に頻繁に見られる現象

12 研究テーマの着眼点, レポートの書き方

13 研究の進め方

14 レポートへ向けて

15 講義のまとめ

8. 成績評価方法：

レポート [30%]・出席 [10%]・授業中の提出物 [60%]

9. 教科書および参考書：

ここからはじまる文章・談話 単行本 - 2008

高崎 みどり (編集), 立川 和美 (編集)

出版社 : ひつじ書房

ISBN-10 : 4894763451

ISBN-13 : 978-4894763456

10. 授業時間外学習：教科書を読んでまとめ、論点を提出する。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：なし

科目名：日本語変異論特論 I / Variation of Japanese (Advanced Lecture)

曜日・講時：前期 木曜日 2 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：大木 一夫

コード：LM14201, 科目ナンバリング：LJS-LIN603J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本語文法研究

2. Course Title (授業題目) : Study of Japanese grammar

3. 授業の目的と概要：現代日本語の文法現象をとりあげ、それについての先行研究をふまえながら、文法的な分析を試みる。また、その内容について、具体的な例文にもとづきながら文法的に考え、議論する。テーマは、叙述類型。なお、より具体的な講義内容・日程等の詳細は、開講時に提示する。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : This course focuses on the grammatical phenomena of modern Japanese and conducts grammatical analysis. Through this, you deepen your understanding of Japanese grammar. The theme is typology of predication.

5. 学習の到達目標：(1) 日本語文法研究における先行研究の内容を把握し、その内容を説明できるようになる。

(2) 日本語文法論における分析視点や論理展開の問題点を見いだすことができるようになる。

(3) 文法的に考え、その結果について報告や議論ができるようになる。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : The purpose of this course is to help students

(1) be able to explain the contents of previous research in Japanese grammar research,

(2) be able to find problems in the analysis viewpoint and logical development of Japanese grammar,

(3) be able to think grammatically and report and discuss the results.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第 1 回：ガイダンス

第 2 回：文法研究とは何か

第 3 回：先行研究の分析について

第 4 回：テーマ概説

第 5 回：研究史の分析 (1)

第 6 回：研究史の分析 (2)

第 7 回：研究史の分析 (3)

第 8 回：研究史の分析 (4)

第 9 回：分析実践 (1)

第 10 回：分析実践 (2)

第 11 回：分析実践 (3)

第 12 回：分析実践 (4)

第 13 回：分析実践 (5)

第 14 回：分析実践 (6)

第 15 回：まとめ

8. 成績評価方法：

参加態度・講義内の小課題・レポート。上記の到達目標に即して総合的に評価する。詳細は開講時に示す。

9. 教科書および参考書：

必要なテキストはコピーして配布する。参考文献は講義内で随時示す。

10. 授業時間外学習：(1) テキストを読み、その内容の要点を把握して参加する。

(2) 講義内の分析・議論についての疑問点を整理する。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：なし

科目名：日本語変異論特論Ⅱ／ Variation of Japanese(Advanced Lecture)

曜日・講時：後期 火曜日 2講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：小林 隆

コード：LM22201， 科目ナンバリング：LJS-LIN604J， 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：方言学的日本語史研究

2. Course Title (授業題目)：study of the dialectological Japanese history

3. 授業の目的と概要： これまでの国語史研究には、文献資料のみに頼り、しかも、中央語史に偏るという問題点があった。方言学的日本語史は、方言を視野に入れることによって、ことばの位相や地理的広がりの中で、従来の国語史の限界を超えることをめざす。この授業では、そのような研究の目的と方法論を解説し、具体的な歴史の記述を通してさまざまな課題について検討していく。

今回は特に、これまで研究が進んでいなかった言語行動や感動詞などを取り上げることにし、その構造と変異、運用の地域差について考え、歴史的な側面についての検討も行う。前期の日本語変異論研究演習で実施する予定の方言調査の結果も、この授業の中で分析する予定である。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Study of the dialectological Japanese history chooses a dialect as being able to come in sight, and to exceed the limit of the conventional Japanese history in the phase of the word and the side of the geographical expanse. Such purpose of a study and methodology are being explained and various problems are being considered through description of history in detail at this session.

This time, in particular, we will focus on language behavior and interjections that have not been studied so far, consider their structures, variations, and operations, and examine historical aspects. The results of the dialect survey that will be conducted in the Japanese variation theory research exercise in the first semester will also be analyzed in this class.

5. 学習の到達目標： 方言を視野に入れた日本語史研究について理解する。特に、言語行動や感動詞の方言研究についてのさまざまな知見を身に着け、分析力を養う。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Understand the study of the dialectological Japanese history. In particular, acquire various knowledge about dialect research of language behavior and interjections, and develop that analytical skills.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 授業内容・日程説明
2. 言語行動・感動詞研究の視点 (1)
3. 言語行動・感動詞研究の視点 (2)
4. 言語行動・感動詞研究の視点 (3)
5. 言語行動・感動詞研究の方法・資料 (1)
6. 言語行動・感動詞研究の方法・資料 (2)
7. 言語行動・感動詞研究の方法・資料 (3)
8. 言語行動・感動詞研究の事例 (1)
9. 言語行動・感動詞研究の事例 (2)
10. 言語行動・感動詞研究の事例 (3)
11. 言語行動・感動詞調査結果の分析 (1)
12. 言語行動・感動詞調査結果の分析 (2)
13. 言語行動・感動詞調査結果の分析 (3)
14. 言語行動・感動詞調査結果の分析 (4)
15. まとめ

8. 成績評価方法：

レポート (80%)・出席 (20%)

9. 教科書および参考書：

教科書は使用せず、補助資料を配布する。参考文献は、授業時に指示する。

10. 授業時間外学習：言語行動や感動詞について、自分および周囲の人たちの言葉遣いを観察し、授業の内容理解に役立てるようにする。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、**実務・実践的授業**であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

オフィスアワー：随時

科目名：日本語学特論 I / Japanese Linguistics (Advanced Lecture)

曜日・講時：後期集中 その他 連講

Semester：2 学期集中 単位数：2

担当教員：三宅 知宏

コード：LM98826, 科目ナンバリング：LJS-LIN605J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本語文法研究の諸問題

2. Course Title (授業題目)：Issues in Japanese Grammar Research

3. 授業の目的と概要：日本語研究において現在、問題になっているトピックを、「文法」の分野を中心に取り上げ、講義する。その際、他言語との対照についても言及し、一般言語学における知見（言語理論）も積極的に活用する。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：This lecture covers topics that are currently considered issues in Japanese Linguistic Research. In so doing, this course will also actively incorporate comparisons with other languages and the knowledge of general linguistics (linguistic theory).

5. 学習の到達目標：(1) 日本語という言語を研究するとはどういうことかについて理解を深める。

(2) そもそも「言語」を研究するとはどういうことかについて理解を深める。

(3) 日本語という言語について、特に「文法」の側面についての知識を得る。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：(1) Students will further their understanding of what it means to research the Japanese language.

(2) Students will further their understanding of what it means to research a language.

(3) Students will gain knowledge of the Japanese language.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 導入（本講義の概略，研究スタイル）

2. 導入 2（日本語の文法研究の現状と課題，「記述／理論」）

3. 日本語の基本的な文法的特性

4. いわゆる「文法化」と共時的な現代日本語

5. 日本語における「文法化」の言語現象の諸相

6. 日本語における「文法化」の言語現象の諸相 2

7. 形態的有標性の観点から見た日英語の対照

8. いわゆる「構文」と共時的な現代日本語

9. 形態的有標性の観点から見た「文法化」と「構文」

10. 「補助動詞」というカテゴリーをめぐる

11. 「補助動詞」と「文法化」

12. 「補助動詞」と「構文」

13. 事例研究①「発見構文」他

14. 事例研究②「受益構文」他

15. まとめ

8. 成績評価方法：

レポート 70%，授業態度（授業期間中に課す小レポートを含む） 30%

9. 教科書および参考書：

テキストは使用せず，適宜，プリントを配布する。参考文献は授業中に指示するが，次を主要な参考書とする。

三宅知宏（著）『日本語研究のインターフェイス』（くろしお出版）

10. 授業時間外学習：各日の授業において，翌日の授業に向けての課題を提示するので，受講者は各自その課題に取り組み，翌日の授業時における議論に耐え得るように準備すること。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：なし

科目名：日本語学総合演習 I / Japanese Linguistics(Integration Seminar)

曜日・講時：前期 火曜日 4 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：小林 隆, 大木 一夫, 甲田 直美

コード：LM12401, 科目ナンバリング：LJS-LIN606J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本語史・方言研究の諸問題(1)

2. Course Title (授業題目) : Studies of Japanese language history and Japanese dialect

3. 授業の目的と概要：日本語史・方言研究について、種々の研究テーマの存在する現在の学界の動向を把握しながら、参加者各自のテーマに関する先行研究の調査・批判をおこない、自己のテーマと研究方法を定める。その上で、テーマ・方法に即した調査をおこない、収集したデータをもとに分析考察を進め、その成果を口頭発表する。また、その内容について、参加者全員による討論をおこなう。自己のテーマに関する先行研究の調査・批判の方法、資料の十分な精査に基づいた考察方法、新たな方法論・研究成果の有効な記述法などを口頭発表、討論等を通じて身につける。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : Participants survey and criticize prior research on Japanese language history and Japanese dialect, and determine their own themes and research methods, while grasping current academic trends where various research themes exist. After that, we will conduct surveys based on the theme and method, conduct analysis and consideration based on the collected data, and announce the results orally. In addition, the contents will be discussed by all participants. Through oral presentations and discussions, students will learn how to research and criticize prior research on their own themes, how to consider them based on sufficient scrutiny of materials, and how to effectively describe new methodologies and research results.

5. 学習の到達目標：(1) これまでの研究動向を把握し、それを明示的に示すことができる。

(2) 各自のテーマに関して、適切な根拠と論証にもとづき、口頭発表することができる。

(3) 口頭発表の内容に即した討論ができる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1) The current research trend can be grasped and it can be shown explicitly.

(2) To be able to make oral presentations on their own themes based on appropriate evidence and evidence.

(3) Discussions can be made based on the content of the oral presentation.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業計画

第1回：ガイダンス・研究発表の方法

第2回：研究発表(1)

第3回：研究発表(2)

第4回：研究発表(3)

第5回：研究発表(4)

第6回：研究発表(5)

第7回：研究発表(6)

第8回：研究発表(7)

第9回：研究発表(8)

第10回：研究発表(9)

第11回：研究発表(10)

第12回：研究発表(11)

第13回：研究発表(12)

第14回：研究発表(13)

第15回：研究発表(14)

定期試験は実施しない。

8. 成績評価方法：

(1) レポート (研究発表の内容にもとづく論文) 90%

(2) 参加態度 (口頭発表に対する質疑・応答など) 10%

9. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。

参考書：

佐藤武義・前田富祺編『日本語大事典』朝倉書店 2014

飛田良文他編『日本語学研究事典』明治書院 2007

日本語学会編『日本語学大辞典』東京堂出版 2018

10. 授業時間外学習：発表に備え、着実に準備を進める。発表後は、発表時の質疑応答に基づき、研究内容をより深化・発展させる。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

発表前には、必ず指導教員と面談を行なうこと。日本語学総合演習Ⅲも連続履修すること。

科目名：日本語学総合演習Ⅱ／ Japanese Linguistics(Integration Seminar)

曜日・講時：後期 火曜日 4講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：小林 隆, 大木 一夫, 甲田 直美

コード：LM22401, 科目ナンバリング：LJS-LIN607J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：現代日本語研究の諸問題(1)
2. Course Title (授業題目) : Studies of contemporary Japanese language
3. 授業の目的と概要：現代日本語研究について、種々の研究テーマの存在する現在の学界の動向を把握しながら、参加者各自のテーマに関する先行研究の調査・批判をおこない、自己のテーマと研究方法を定める。その上で、テーマ・方法に即した調査をおこない、収集したデータをもとに分析考察を進め、その成果を口頭発表する。また、その内容について、参加者全員による討論をおこなう。自己のテーマに関する先行研究の調査・批判の方法、資料の十分な精査に基づいた考察方法、新たな方法論・研究成果の有効な記述法などを口頭発表、討論等を通じて身につける。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : About modern Japanese Studies participants survey and criticize prior research on the themes of each participant, and determine their own themes and research methods, while grasping the current trends in the academic world where various research themes exist. After that, we will conduct surveys based on the theme and method, conduct analysis and consideration based on the collected data, and announce the results orally. In addition, the contents will be discussed by all participants. Through oral presentations and discussions, students will learn how to research and criticize prior research on their own themes, how to consider them based on sufficient scrutiny of materials, and how to effectively describe new methodologies and research results.
5. 学習の到達目標：(1) これまでの研究動向を把握し、それを明示的に示すことができる。
(2) 各自のテーマに関して、適切な根拠と論証にもとづき、口頭発表することができる。
(3) 口頭発表の内容に即した討論ができる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1) The current research trend can be grasped and it can be shown explicitly.
(2) To be able to make oral presentations on their own themes based on appropriate evidence and evidence.
(3) Discussions can be made based on the content of the oral presentation.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
授業計画
第1回：ガイダンス・研究発表の方法
第2回：研究発表(1)
第3回：研究発表(2)
第4回：研究発表(3)
第5回：研究発表(4)
第6回：研究発表(5)
第7回：研究発表(6)
第8回：研究発表(7)
第9回：研究発表(8)
第10回：研究発表(9)
第11回：研究発表(10)
第12回：研究発表(11)
第13回：研究発表(12)
第14回：研究発表(13)
第15回：研究発表(14)
定期試験は実施しない。
8. 成績評価方法：
(1) レポート（研究発表の内容にもとづく論文） 90%
(2) 参加態度（口頭発表に対する質疑・応答など） 10%
9. 教科書および参考書：
教科書は使用しない。
参考書：
佐藤武義・前田富祺編『日本語大事典』朝倉書店 2014
飛田良文他編『日本語学研究事典』明治書院 2007
日本語学会編『日本語学大辞典』東京堂出版 2018
10. 授業時間外学習：発表に備え、着実に準備を進める。発表後は、発表時の質疑応答に基づき、研究内容をより深化・発展させる。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

発表前には、必ず指導教員と面談を行なうこと。日本語学総合演習IVも連続履修すること。

科目名：日本語学総合演習Ⅲ／ Japanese Linguistics(Integration Seminar)

曜日・講時：前期 火曜日 5講時

Semester：1学期 単位数：2

担当教員：小林 隆, 大木 一夫, 甲田 直美

コード：LM12501, 科目ナンバリング：LJS-LIN608J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本語史・方言研究の諸問題(2)
2. Course Title (授業題目) : Studies of Japanese language history and Japanese dialect
3. 授業の目的と概要：日本語史・方言研究について、種々の研究テーマの存在する現在の学界の動向を把握しながら、参加者各自のテーマに関する先行研究の調査・批判をおこない、自己のテーマと研究方法を定める。その上で、テーマ・方法に即した調査をおこない、収集したデータをもとに分析考察を進め、その成果を口頭発表する。また、その内容について、参加者全員による討論をおこなう。自己のテーマに関する先行研究の調査・批判の方法、資料の十分な精査に基づいた考察方法、新たな方法論・研究成果の有効な記述法などを口頭発表、討論等を通じて身につける。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : Participants survey and criticize prior research on Japanese language history and Japanese dialect, and determine their own themes and research methods, while grasping current academic trends where various research themes exist. After that, we will conduct surveys based on the theme and method, conduct analysis and consideration based on the collected data, and announce the results orally. In addition, the contents will be discussed by all participants. Through oral presentations and discussions, students will learn how to research and criticize prior research on their own themes, how to consider them based on sufficient scrutiny of materials, and how to effectively describe new methodologies and research results.
5. 学習の到達目標：(1) これまでの研究動向を把握し、それを明示的に示すことができる。
(2) 各自のテーマに関して、適切な根拠と論証にもとづき、口頭発表することができる。
(3) 口頭発表の内容に即した討論ができる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1) The current research trend can be grasped and it can be shown explicitly.
(2) To be able to make oral presentations on their own themes based on appropriate evidence and evidence.
(3) Discussions can be made based on the content of the oral presentation.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
授業計画
第1回：ガイダンス・研究発表の方法
第2回：研究発表(1)
第3回：研究発表(2)
第4回：研究発表(3)
第5回：研究発表(4)
第6回：研究発表(5)
第7回：研究発表(6)
第8回：研究発表(7)
第9回：研究発表(8)
第10回：研究発表(9)
第11回：研究発表(10)
第12回：研究発表(11)
第13回：研究発表(12)
第14回：研究発表(13)
第15回：研究発表(14)
定期試験は実施しない。
8. 成績評価方法：
(1) レポート (研究発表の内容にもとづく論文) 90%
(2) 参加態度 (口頭発表に対する質疑・応答など) 10%
9. 教科書および参考書：
教科書は使用しない。
参考書：
佐藤武義・前田富祺編『日本語大事典』朝倉書店 2014
飛田良文他編『日本語学研究事典』明治書院 2007
日本語学会編『日本語学大辞典』東京堂出版 2018
10. 授業時間外学習：発表に備え、着実に準備を進める。発表後は、発表時の質疑応答に基づき、研究内容をより深化・発展させる。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

発表前には、必ず指導教員と面談を行なうこと。日本語学総合演習 I も連続履修すること。

科目名：日本語学総合演習IV／ Japanese Linguistics(Integration Seminar)

曜日・講時：後期 火曜日 5講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：小林 隆, 大木 一夫, 甲田 直美

コード：LM22501, 科目ナンバリング：LJS-LIN609J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：現代日本語研究の諸問題(2)

2. Course Title (授業題目)：Studies of contemporary Japanese language

3. 授業の目的と概要：現代日本語研究について、種々の研究テーマの存在する現在の学界の動向を把握しながら、参加者各自のテーマに関する先行研究の調査・批判をおこない、自己のテーマと研究方法を定める。その上で、テーマ・方法に即した調査をおこない、収集したデータをもとに分析考察を進め、その成果を口頭発表する。また、その内容について、参加者全員による討論をおこなう。自己のテーマに関する先行研究の調査・批判の方法、資料の十分な精査に基づいた考察方法、新たな方法論・研究成果の有効な記述法などを口頭発表、討論等を通じて身につける。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：About modern Japanese Studies participants survey and criticize prior research on the themes of each participant, and determine their own themes and research methods, while grasping the current trends in the academic world where various research themes exist. After that, we will conduct surveys based on the theme and method, conduct analysis and consideration based on the collected data, and announce the results orally. In addition, the contents will be discussed by all participants. Through oral presentations and discussions, students will learn how to research and criticize prior research on their own themes, how to consider them based on sufficient scrutiny of materials, and how to effectively describe new methodologies and research results.

5. 学習の到達目標：(1)これまでの研究動向を把握し、それを明示的に示すことができる。

(2)各自のテーマに関して、適切な根拠と論証にもとづき、口頭発表することができる。

(3)口頭発表の内容に即した討論ができる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1) The current research trend can be grasped and it can be shown explicitly.

(2) To be able to make oral presentations on their own themes based on appropriate evidence and evidence.

(3) Discussions can be made based on the content of the oral presentation.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業計画

第1回：ガイダンス・研究発表の方法

第2回：研究発表(1)

第3回：研究発表(2)

第4回：研究発表(3)

第5回：研究発表(4)

第6回：研究発表(5)

第7回：研究発表(6)

第8回：研究発表(7)

第9回：研究発表(8)

第10回：研究発表(9)

第11回：研究発表(10)

第12回：研究発表(11)

第13回：研究発表(12)

第14回：研究発表(13)

第15回：研究発表(14)

定期試験は実施しない。

8. 成績評価方法：

(1)レポート(研究発表の内容にもとづく論文) 90%

(2)参加態度(口頭発表に対する質疑・応答など) 10%

9. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。

参考書：

佐藤武義・前田富祺編『日本語大事典』朝倉書店 2014

飛田良文他編『日本語学研究事典』明治書院 2007

日本語学会編『日本語学大辞典』東京堂出版 2018

10. 授業時間外学習：発表に備え、着実に準備を進める。発表後は、発表時の質疑応答に基づき、研究内容をより深化・発展させる。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

発表前には、必ず指導教員と面談を行なうこと。日本語学総合演習Ⅱも連続履修すること。

科目名：日本語構造論研究演習 I / Structure of Japanese (Advanced Seminar)

曜日・講時：後期 月曜日 2 講時

セメスター：2 学期 単位数：2

担当教員：甲田 直美

コード：LM21202, 科目ナンバリング：LJS-LIN610J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：文章・談話の構造
2. Course Title (授業題目) : Discourse and Conversation Analysis
3. 授業の目的と概要：教科書で扱われている会話使用の根底にある理論を理解し、実際の分析に役立てる。これまでに共有・公開されている文章・談話のデータをもとに、文章・談話研究でのデータの採取の仕方とその分析方法について整理・検討する。以下の項目を、具体例の検証とともに押さえる。
 - I. データの種類とその扱い：分析の観点、ジャンル、レジスター、談話標識の研究、照応と省略、接続表現などの文法項目と適切性に関する項目の研究手法、参与構造、話者交替に関する項目の研究手法、
 - II. 分析の手法の検討：質的データ、量的データと使用可能な分析方法、
 - III. 論文の書き方：論文の構造、研究計画の立案の仕方
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : This course deals with the basic methods and theory to analyze discourse and conversation.
 - I. Approaches to genre, register, studies on discourse markers, anaphora, ellipsis, connective words, participation framework, and turn construction unit
 - II. Methods for collecting data
 - III. Guidelines for assignment report writing
5. 学習の到達目標：(1)文章・談話研究のために必要な方法論を身につける。
(2)データの採取方法と採取したデータの分析方法を身につける。
6. Learning Goals (学修の到達目標) : The goals of this course are to obtain basic methodology and skill to analyze discourse and conversation.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
まず、以下の項目について会話使用の根底にある理論を理解し、それぞれのテーマに対応した問をデータを参照しつつ議論する。発表者はテキストを紹介する。第 1 回から第 10 回。
 1. 属性とことば
 2. 場面とことば
 3. ことばのリテラシー
 4. ことばの切換え
 5. 生活とことば
 6. 民俗社会とことば
 7. 言語接触
 8. 多言語との接触
 9. 言語変化 1
 10. 言語変化 2第 11 回から第 15 回は、上記のテーマの中から、自分が興味をもったテーマについて、データをもとに調べる。データの扱い方、問の立て方について議論し、論文の書き方を身につける。
8. 成績評価方法：
レポート [50%]・出席 [10%]・発表内容 [40%]
9. 教科書および参考書：
『社会言語学の展望』真田信治 [編] (2006) くろしお出版
ISBN978-4-87424-345-9 C3081
10. 授業時間外学習：論文を読んで、論点を把握し、まとめる。電子化データを検索し、鍵となる言語項目について分析する。
11. 実務・実践的授業/Practical business
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practical business》
12. その他：なし
受講希望者は前期に開講する「文章・談話の構造論」を履修しているのが望ましい。

科目名：日本語構造論研究演習Ⅱ／ Structure of Japanese(Advanced Seminar)

曜日・講時：前期 木曜日 5講時

セメスター：1学期 単位数：2

担当教員：津田 智史

コード：LM14501, 科目ナンバリング：LJS-LIN611J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：言語地理学と文法
2. Course Title (授業題目)：Geo-Linguistics and Distribution of Grammatical Expressions
3. 授業の目的と概要：日本語における言語地理学と文法に関する研究論文について、その内容を要約して、発表をおこなう。日本語における言語地理学的な理論や考え方を学ぶとともに、文法事項の地理的分布などをどのように読み取るかについて考える。また、必要により文法以外の分布図にもふれるとともに、方言形成の過程についても考える。受講者全員で研究論文の内容について討議し、方言文法の分布解釈とそれにかかわる理論に関する理解を深めていく。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course covers the Japanese Geo-Linguistics and the way to read the atlas of Japanese dialect, especially grammatical matters. To learn Geo-Linguistic theories and how to read the geographical distribution of grammatical expressions, students will read the research papers about the theme, and summarize papers. Not only treating matters in Grammar, but also Phonetic or Lexical matters if necessary. Then also think about the Dialect Formation Theory. All students will discuss the content above and develop their understanding of interpreting the distribution of grammatical expressions and the theory related to it.
5. 学習の到達目標：(1) 自分たちが使うことばについての基礎的知識を身に付ける
(2) 語学的な見方・考え方はもとより、調査・分析の方法、また問題設定、解決能力を身に付ける
(3) 適切な発表資料の作成方法、発表・プレゼンテーションの技法を身に付ける
6. Learning Goals(学修の到達目標)：The primary goal of the class is for students to gain below.
(1) To acquire basic knowledge of Japanese
(2) To learn about the way to research and to solve problems
(3) To develop the skills of how to create presentation materials, and the way of presentation
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. ガイダンス
 2. 日本語方言の分布と方言形成
 3. 日本の言語地理学と方言圏論
 4. 日本語方言における文法研究
 5. 言語地理学と文法に関する論文講読 (1)
 6. 言語地理学と文法に関する論文講読 (2)
 7. 言語地理学と文法に関する論文講読 (3)
 8. 言語地理学と文法に関する論文講読 (4)
 9. 言語地理学と文法に関する論文講読 (5)
 10. 言語地理学と文法に関する論文講読 (6)
 11. 言語地理学と文法に関する論文講読 (7)
 12. 言語地理学と文法に関する論文講読 (8)
 13. 言語地理学と文法に関する論文講読 (9)
 14. 言語地理学と文法に関する論文講読 (10)
 15. まとめ
8. 成績評価方法：
レポート [30%]・授業への参与状況 [30%]・演習発表 [40%]
9. 教科書および参考書：
教科書は使用しない。プリントを授業中に配布する。参考文献リスト及び参考図書は授業中に指示する。
10. 授業時間外学習：発表担当者は、担当となった論文とその内容に関わる用語等について、日本語学関連の辞書や関連論文・書籍から調べておく。受講者は、事前にその論文を読み、その内容についての疑問や意見等をまとめておく。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし
なし

科目名：日本語変異論研究演習 I / Variation of Japanese (Advanced Seminar)

曜日・講時：前期 月曜日 2 講時

Semester：1 学期 単位数：2

担当教員：大木 一夫

コード：LM11202, 科目ナンバリング：LJS-LIN612J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：近世口語研究

2. Course Title (授業題目) : Study of early modern colloquial Japanese

3. 授業の目的と概要：『古今和歌集』の注釈書のひとつである本居宣長『古今集遠鏡』を読む。『古今集遠鏡』は『古今和歌集』の和歌を俗語訳、すなわち江戸時代の口語で訳したものである。では、そこに見られる宣長の俗語訳とはどのような訳なのだろうか。また、そこで用いられる俗語とはどのようなものなのだろうか。『古今集遠鏡』を丁寧に読みながら、江戸時代の口語の諸相をさまざまな観点から分析していく。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : In this course, while reading "Kokinshu-tokagami", you analyze various aspects of the early modern colloquial Japanese and Japanese language history.

5. 学習の到達目標：(1) 日本語史研究にかかわる文献資料が読めるようになる。

(2) 日本語史上の問題点を見いだすことができるようになる。

(3) 文献によって日本語の歴史をとらえるための調査をおこない、それにもとづき報告・議論をおこなうことができるようになる。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : The purpose of this course is to help students

(1) be able to read materials in old Japanese languages.

(2) be able to find problems in Japanese language history

(3) be able to conduct surveys to grasp the history of Japanese language based on literature materials, and to make reports and discussions based on them.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス、変体仮名の読み方

2. 日本語史上の口語資料

3. 『古今集遠鏡』 解題

4. 発表の方法

5. 研究発表(1)

6. 研究発表(2)

7. 研究発表(3)

8. 研究発表(4)

9. 研究発表(5)

10. 研究発表(6)

11. 研究発表(7)

12. 研究発表(8)

13. 研究発表(9)

14. 研究発表(10)

15. 研究発表(11)・まとめ

8. 成績評価方法：

参加態度・レポート。上記の到達目標に即して総合的に評価する。詳細は開講時に示す。

9. 教科書および参考書：

大木一夫『ガイドブック日本語史調査法』ひつじ書房 2019

テキスト（『古今集遠鏡』）はコピーして配付する。

参考文献は講義内で随時示す。

10. 授業時間外学習：(1) 日本語史研究にかかわる文献資料を読んで参加する。

(2) 文献によって日本語の歴史をとらえるための調査をおこなう。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：なし

第2学期の「日本語変異論研究演習 II」（言語変化研究）も連続して履修すること。

科目名：日本語変異論研究演習Ⅱ／Variation of Japanese(Advanced Seminar)

曜日・講時：後期 木曜日 2講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：大木 一夫

コード：LM24202, 科目ナンバリング：LJS-LIN613J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：言語変化研究

2. Course Title (授業題目) : Study of language change

3. 授業の目的と概要：日本語史研究は、古い時代の日本語がどのような姿であったのかという点は、かなり精細に明らかにしてきている。それに対して、言語はどのように変化するのか、また、言語はなぜ変化するのかという観点からの分析が十分ではない。そこで、日本語の歴史におこった言語変化をあとづけながら、そこにはどのような変化があったのか、また、なぜ変化したのかという観点からの分析を加える。参加者が調査・考察をおこなって、その成果を発表し、議論する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : In this course, you will clarify the language changes that have occurred in the history of Japanese language, and analyze how they changed there and why. Students conduct surveys and analyses, publish and discuss the results.

5. 学習の到達目標：(1) 日本語史研究にかかわる文献資料が読めるようになる。

(2) 日本語史上の言語変化の問題点を見いだすことができるようになる。

(3) 言語変化をとらえるための調査をおこない、それにもとづき報告・議論ができるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : The purpose of this course is to help students

(1) be able to read literature related to the study of Japanese language history.

(2) be able to find the problem of language change in Japanese language history.

(3) be able to conduct research to clarify language changes, and report and discuss based on them.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス

2. 言語変化研究の現状(1)

3. 言語変化研究の現状(2)

4. 言語変化研究の現状(3)

5. 言語変化研究の問題意識(1)

6. 言語変化研究の問題意識(2)

7. 言語変化についての研究発表(1)

8. 言語変化についての研究発表(2)

9. 言語変化についての研究発表(3)

10. 言語変化についての研究発表(4)

11. 言語変化についての研究発表(5)

12. 言語変化についての研究発表(6)

13. 言語変化についての研究発表(7)

14. 言語変化についての研究発表(8)

15. 言語変化についての研究発表(9)、まとめ

8. 成績評価方法：

参加態度・レポート。上記の到達目標に即して総合的に評価する。詳細は開講時に示す。

9. 教科書および参考書：

必要なテキストはコピーして配布する。参考文献は講義内で随時示す。

10. 授業時間外学習：日本語史研究・言語変化研究にかかわる文献資料を読んで参加する。

言語変化の過程、要因の研究方法について検討する。

日本語史上の言語変化についての調査をおこなう。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：なし

第1学期の「日本語変異論研究演習Ⅰ」(近世口語研究)から連続して履修すること。

科目名：日本語変異論研究演習Ⅲ／ Variation of Japanese(Advanced Seminar)

曜日・講時：前期 火曜日 2講時

Semester：1 学期 単位数：2

担当教員：小林 隆

コード：LM12203, 科目ナンバリング：LJS-LIN614J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：方言調査法

2. Course Title (授業題目) : Method of the dialect investigation

3. 授業の目的と概要： 方言のしくみや地理的広がりを把握するための調査方法について具体的に検討する。記述的研究のほか、方言地理学や社会方言学、あるいは地方語文献による方言研究を取り上げる。また、方言会話の記録を一つのテーマとすることもある。学期の後半、ないし、夏休みに実際に方言調査を行うので、受講者は準備段階からそれに参加する必要がある。

なお、コロナウィルス感染症の影響で現地調査が困難な場合は、オンライン調査に切り替えて実施する予定である。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : Investigation method to grasp structure of a dialect and a geographical expanse is considered specifically. Dialectology by a dialect geography in addition to a descriptive study and social dialectology or a vernacular document is taken up. The record of dialect conversation is made one theme. A dialect investigation is performed actually in the second half in a semester or the summer holidays, so a participant has to participate in that from the stage of preparations. If it is difficult to conduct a field survey due to the effects of coronavirus infection, we plan to switch to an online survey.

5. 学習の到達目標： 方言調査の方法を検討し、実際に調査を企画・実施する。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : A way of a dialect investigation is considered, and an investigation is planned and it's put into effect actually.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 授業内容・日程、成績評価の方法などの説明

2. 授業および調査の進め方についての検討、これまでの取り組みの解説、チーム編成作業

3. 方言的特徴の調べ方についての解説(1)

4. 方言的特徴の調べ方についての解説(2)

5. テーマ等設定に向けての作業(1)

6. テーマ等設定に向けての作業(2)

7. 中間報告(1)

8. 中間報告(2)

9. 調査票の作り方についての解説

10. 調査票の検討、方言会話の収録調査の方法

11. 調査票の検討、模擬調査と録音機の使い方

12. 現地調査と結果の分析(1)

13. 現地調査と結果の分析(2)

14. 最終報告(1)

15. 最終報告(2)、授業のまとめ

8. 成績評価方法：

レポート(50%)・出席(50%)

9. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。参考書は適宜教室で指示する。

10. 授業時間外学習：①テーマの設定、中間報告、最終報告のための準備を行う。

②現地調査に参加し、結果の分析を行う。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

1 2. その他：なし

オフィスアワー：随時